（様式**6**）

堀越　政孝氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題　目　The process of accepting functional impairments among male rectalcancer patients after surgery
（男性直腸がん患者が術後に機能障害を受け入れていくプロセス）
The KITAKANTO MEDICAL JOURNAL (in press)　67(1), 2017
Masataka Horikoshi,　Tamae Futawatari

論文の要旨及び判定理由

男性直腸がん患者は、術後に排便・排尿・性機能障害という3大機能障害に悩まされる。本研究では、男性直腸がん患者が術後に出現する機能障害をどのように受け入れていくのかというプロセスを明らかにした。術後6ヶ月以上経過した男性直腸がん患者14名に半構成的面接を行い、グラウンデッドセオリーアプローチを用いて分析した。　術後3大機能障害による体験に関連する現象として≪排便障害の始まり≫≪排尿障害の実態理解≫≪排便障害へのとりあえずの対処≫≪コントロールできない排便≫≪自尊心へのダメージ≫≪手術したことへの後悔≫≪支えの実感≫≪諦めによる受け入れ≫≪前向きな受け入れ≫など12サブカテゴリーを形成した。ストーリーラインは術後間もない時期から排便障害に翻弄され、排尿障害、性機能障害も追い打ちをかけるように出現する。複合的な機能障害が相互に影響して、生活そのものや仕事、趣味・娯楽へも悪影響が生じ生活に支障をきたす。性機能障害による羞恥心、様々な機能障害と男らしさの喪失感が自尊心に影響を与える。対処方法を模索し理解が進むと一旦自尊心が低下するという辛い体験をする。しかし、自分なりの対処ができ始め、対処の確立へとつながるプロセスを歩んでいた。

本研究では、男性直腸がん患者の障害は①3大機能障害が折り重なって影響し合うこと、②障害の理解は男らしさの喪失を伴い自尊心低下を招くが、それらに対処できることが自信になり障害を受容できる知見が得られ、博士（保健学）の学位に値するものと判定した。

（平成29年2月16日）

審査委員

主査　群馬大学大学院教授
看護学講座　神　田　清　子　印

副査　群馬大学大学院教授
看護学講座　佐　光　恵　子　印

副査　群馬大学大学院教授
看護学講座　佐　藤　由　美　印

参考論文

なし